

# 探 鳥 記

八 田 七郎右衛門

毎年3月の声を聞くと、ミソサザイやカワガラスの巣造りが気になり出し、無事に冬を越した鳥達がテリトリーを宣言して囀りたけなわの4月。南からの夏鳥を混じえて野の鳥、山の鳥が営巣と育雛に精出す5月と春は探鳥に忙しい。水辺ではオーストラリアからアラスカの繁殖地へ向かうシギの仲間が旅の途中で立ち寄って見せる姿、夏の最中は育雛も終わって野鳥との出会いも暇となるが8月下旬から9月にかけては南下するシギ類を探し求め、11月には北方からの冬鳥の季節となり積雪時の彼等の生活もよく目につくようになる。50年4月以降の探鳥について会や県主催も含めて調査をまとめてみたい。野鳥の1日における活動は夜明けと共に始まり、太陽が昇るに従って囀りも半減して生息する鳥類をきわめることは時刻によって左右されるので記録されただけではないことをおことわりしたい。尚、日本産鳥類489種のうち本県で確認されたものは255種である。(S. 51年3月現在)

## 1. 杉山探鳥会(50.5.4. 13:00~16:00 小雨 勝山市)

留、漂鳥に、ホオジロ、ウグイス、ヒヨドリ、カケス、キセキレイ、シジュウカラ、メジロ、ヤマガラ、コゲラ、ハシボソガラス、カワラヒワ、スズメ、カワガラス、キジバト

夏鳥に、オオルリ、ヤブサメ、サンショウクイ、コサメビタキ、クロツグミ、ノジコ、ツバメ、  
21種 59個体

ザゼンソウや黄色い花をつけるイカリソウを路傍に見るこの地でのノジコは県内唯一のノジコ観察地で数少ないこの鳥の営巣確認に努めている。

## 2. 亀山公園探鳥会(50.5.5. 5:30~7:00 曇 大野市)

留、漂鳥に、カワラヒワ、トビ、ハシボソガラス、イカル、ホオジロ、キジバト、ヒヨドリ、スズメ、ムクドリ、コゲラ、アオサギ、キセキレイ、キジ、スズメ、カケス、カルガモ、エナガ、

夏鳥に、ツバメ、サシバ、コサメビタキ、センダイムシクイ、コシアカツバメ、サメビタキ

冬鳥に、(遅くなって北方に帰るもの)ツグミ、シメ 25種 115個体、

市としても野鳥誘致に力を入れられている公園である。周囲が平地であるところからアオサギやカルガモも上空を通過するものを観察できる。

## 3. 武生第五中学校体力作り遊歩道探鳥会(50.5.10. 曇 7:00 山の稜線800m)

留、漂鳥に、ウグイス、カワラヒワ、キジ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイ、トビ、ハシボソガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ホオジロ

夏鳥に、ツバメ 12種 33個体

愛鳥モデル校として全員参加の関心の探鳥催しであった。

#### 4. 足羽山探鳥会(50.5.11. 6:30 晴)

留、漂鳥に、イカル、カワラヒワ、シジュウカラ、カケス、スズメ、トビ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ホオジロ、アオゲラ、コゲラ、ムクドリ、ヤマガラ、エナガ、ミソサザイ、キジ、ハシブトガラス、メジロ、ウグイス、セグロセキレイ、コジュケイ

夏鳥に、センダイムシクイ、キビタキ、ツバメ、コシアカツバメ、シマゴマ、コサメビタキ

冬鳥に、アオジ、シメ、キレンジャク 30種 168個体

例年愛鳥週間の行事で、年を重ねるに従って参加者も多くなり、少年女愛鳥クラブ員は福井ロータリークラブより寄贈された野鳥図鑑、双眼鏡を手に数多くの野鳥に接することができた。今年の出色は、キビタキの鮮かな腹部のオレンジ色とピッコロコ、ピッコロコと玉をころがす囀りを目に見たことと、聞きなれない鳴き声と初めての姿からシマアジと判定し、中央に録音テープを送って初確認したことであった。移動しているヒヨドリの20~40羽の群れも小規模ながらその習性を見た。

この会が終わって国道8号線と芦原街道を一巡したが、田植えの終わった水田で旅鳥のムナグロ、トウネン、キアシシギ、ツルシギ等百羽以上を数えることができた。

#### 5. 河野小学校探鳥会(50.5.15. 6:30 晴)

留、漂鳥に、イカル、ウグイス、カワラヒワ、キジバト、コゲラ、スズメ、セグロセキレイ、トビ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ホオジロ、メジロ

夏鳥に、サンショウクイ、ツバメ、コシアカツバメ 15種 47個体

愛鳥モデル校2年目で参加児童は昨年観察したヒヨドリ、ホオジロ、キジバトの名前は覚えていたし、学校の裏山はよい探鳥コースでもある。

#### 6. 芦山公園 武生市

5月25日 20種 28個体

8月24日 11種 30個体

9月24日 13種 25個体

県野鳥保護協会武生支部、武生中央公民館親子教室の計画した探鳥会の記録数で、季節的な出会いの濃淡を示しているようである。初心の方には種類数が多いよりも個体数の多い方が覚えやすいようである。

#### 7. 久々子湖畔シギチドリセンサス(50.9.14)

湖畔には排水の悪い水田があり、シギ、チドリが旅の途中で休息採餌する有数の場所である。表日本の干潟にくる数には比ぶべきもないが、タカブシギ、トウネン、オオジシギ、タシギ、ツルシギを確認した。この記録は日本鳥類保護連盟に報告して全国の集計資料となる。その他の鳥に、コヨシキリ、ハクセキレイ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、ウミネコ、カイツブリ、カワラヒワ、キジバト、ヒクイナ、モズ、トビ、ケリ、ヨシゴイ、ムシクイ、キセキレイ、セグロセキレイ、コシアカツバメを見る(20種)

## 8. 三方五湖の冬鳥

カモ類とイヌワシ、オオワシ、オジロワシが主体となるが、カモ類ではマガモ、コガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、オシドリ、オナガガモ等本年のセンサスでは3000羽を越えており、中でもアカツクシガモ1羽の記録は全国でも数少ない貴重なものであった。迷鳥であろうが数年前のアカハシハジロやタンチョウの来訪等環境は優れていると見られる。このことはワシ類の越冬地となることも裏付けている。本年はオオワシ1、オジロワシ1で3種合わせて7羽もいた頃と比べて、どうなっているかと気にかかる。

## 9. 金草岳にイヌワシを求めて(50.3.14 晴)

最近もまだ冠山金草岳夜叉ケ池にかけて繁殖しているだろうかという課題に悩まされているが、冠山夜叉ケ池の数回の調査では認められず、雪が消えては登山困難な金草山の調査を残雪の3月14日、武生山岳会員の応援を得て午前7時半芋平から入山した。林道ではミソサザイの綺麗な囀りとカワガラス、山合いの早春を感じながらブッシュをおし倒した雪上に踏み入り、ブナの直径60～70cmばかりの疎林を4時間ばかりで頂上に着く、この間にホオジロ8、ヒガラ、シジュウカラ各1を聞いただけで後はひっそりとしたものであった。頂上付近は一面の雪でイヌワシが営巣しそうな大木は全くなく、迂回しての下山道のブナ大木にも古巣も見当たらず、空飛ぶ姿も見なかった。カケスのもと思われる古巣は3個あったのが、長年の課題にも光明はなさそうである。800m付近ではマルバマンサクが開いていたが、1000mでは風衝木で蕾も固く、春遠しの感がする。ヤマグルマは初めての観察であった。

福井県愛鳥教育研究会長